

全五十五年(千七百九十年)六月大風雨あり、漲水の爲に廬舎多く陷溺す、  
(未完)

### ●我南洋の新領土南鳥島の近況 今度愈々

我領土に歸して、東京府下小笠原島の管轄に編入せられたる、南洋の一島南鳥島は、北緯二十四度十四分、東徑百五十四度に位する一小島にして、曾て米國の航海家に發見せられて、其海圖にはフカス、或はマカフと稱せられ、我國にては金華山沖の遠洋漁業家某始て之を發見せりと雖も、其年代詳ならず、明治二十九年十二月水谷某島内を探檢し、本年始めて帝國の一領土に屬したり、全氏は目下數十人を全島に移住せしめ、専ら土地の開墾に従事せるが、全島の面積等は未だ實測を經ざるを以て判然せずと雖も、開拓すべき土地は三十萬坪を下らざるべく、信天翁鳥の捕獲、及び漁業製鹽等は、將來最も見込める事業なりといふ、氣候は四季共に大差違なく、本年四月二十三日に於ける温度は晝間華氏八十三度、夜七十五度なりしと、

### ●天山の地質探檢 目下中央亞細亞の探檢に従

雜報

事せるフッテレ教授の報せる所に依れば天山は西部と中央部の構造に著しき差違あり、露西亞の圖にアライ連嶺といふものは東西に走れる一大山脈にして、東徑七十三度半なるテレンダグツに至り、此よりベレウリ嶺を過ぎて主山脈の方向は南北となりアイウ、タバムに至る、此間をバックス、ベレウリといふ東經七十二度四十五分の處にてアライ主山脈の北に一高連嶺を分ちアライの北東部の連嶺に並走すアライの大溪谷アムー江の窪地に屬するもの此諸連嶺と其南を並走する後アライ連嶺を分つ、而して後アライの東に連りてムスターグ、タウあり、オシユと喀什噶爾との間の地質の構造は地形に應じ層向東西及南北に向へり、其南北の方向は古期の岩石粘板岩千枚岩並に古生層岩石に多くグルチャよりイユケシユタム近傍に至る間に現はれ大傾斜を示し或は直立することあり、此南北に走れる岩層は西に延びず、此地方には又石灰岩並に泥灰岩あり、化石に依れば中生紀の新期又は第三紀の古期に屬す、該層も亦南北の層向を以て褶曲し斷層せりイユケシユタムの東にては岩層新